

夜間観察調査全体評価

2016年2月に全室個室・ユニット型施設へ入居者の引越しがあり、新しい環境に入居者がまず慣れていくことの支援に加えて職員も生活環境の使い方を検討している段階で試行錯誤の状況の中での抜き打ち調査であった。特に、本町はこれまでにないハード（一室が2部屋に分かれている）で、今後、そのような居住環境を十分に生かした生活の質の向上が期待できます。

今回の抜き打ち調査は、引越して荷物がまだ片付かない状況であったため、本町リビング&食堂、廊下など、桜町の一部の居室は特に観察の対象とはせず、全体的に気がついた点について挙げます。

- ◆ 本町3丁目は、居室の整理ダンスの上などに剥き出しのオムツが置かれていた。他のフロア・ユニットには見受けられず、これまでも龍生園にはなかったこと。プライバシーに関わることなので見直しが必要。
- ◆ 全体的に冷蔵庫の中の清潔保持ができていなかった。時期的に厳しい状況にはあるが、日常生活の中の生活の質に関わることであ

るため意識を高めるための注意喚起が必要。

- ◆ 点滴スタンドが増えているように感じた。点滴のサックカバーは掛けられているが、スタンドのスチールが無機質で冷たく感じます。これからターミナル期の人が増えていくことや重度の方が医療的ケアを受ける状態にあっても病院的ではなく家庭的な環境を心がけて工夫されることを期待する。【写真参照】

スタンドカバーの長さは、ベッド枠より 10 cm 下までの方がいいと思います。

- ◆ ショートステイの拘束を無くすための対策を検討する必要。

* * * * *

- ◆ 突然の調査に夜勤者は驚き、緊張感があったと思うが、7人の夜勤者はありのままの自然体であった。
- ◆ 本町は入居者が引越したばかりでまだまだ居住環境まで整備できる状況にはないことを理解しつつ、玄関などにはその家らしい「おもてなし」があった。職員は忙しい中にも潤いと和める環境に心配りがあり、生活文化の高い意識を感じることができた。
- ◆ 職員の言葉使い、態度はていねいで声のトーンは人を穏やかにさせる高さで、とても心地良い。コールで呼ばれ、落ち着くまで対

応する姿勢には誠意が感じられ、それらが信頼につながっていると確信した。

さらに、その人のプライドを尊重した対応に評価者は感銘を受けた。人間力の高さが理解できる。

- ◆ 正面玄関は新町ユニットのある場所に変った。季節感に溢れ、温かい雰囲気から生き活きとした生活を感じる取ることができる。
- ◆ 豊かな食事は人を孤独感から救うことができる。朝食の入居者の表情はとても豊かであった。
- ◆ 観察調査終了後、蓑田副施設長、高村事務長が出勤していたので、報告と確認をおこなった。蓑田副施設長が具体的に、一人ひとりの入居者の状況を説明できるのは、日常的に現場を訪問し、細かく把握できているのは、当然とはいえそのような経営者は現実的に少ないだけに高く評価できる。

【参照：点滴スタンドカバー】

